

新型コロナウイルス関連 公開情報取りまとめ  
～2020年5月13日(水) 18時現在～

在サンパウロ日本国総領事館

1 サンパウロ州

5月13日(水)

- 13日(水) 15時現在、州内感染者数は前日比3378人増(+7%)の5万1097人、うちサンパウロ市が3万402人、オザスコ市が1390人、サン・ベルナルド・ド・カンポ市が1210人、グアルーリョス市が1189人と続く。州内死者数は同169人増(+4%)の4118人で、うちサンパウロ市が2494人。全体の致死率は8.1%、60歳以上の死者の割合は73.1%。感染が確認されているのは州内645市のうち434市(前日424市)、死者は192市(前日186市)。入院感染患者数は約9600人(前日9900人)。州内公立病院のICU占有率は68.3%(前日69.1%)、サンパウロ大都市圏内は同87.2%(前日85.7%)。
- 13日(水)の州の社会的隔離実施率は47%(前日同)、サンパウロ市の実施率は48%(前日同)。なお、同日の実施率トップは引き続きサン・セバスチャン市の63%。
- 13日(水)、サンパウロ州政府は、スポーツジム、美容室、床屋等の営業再開について、州保健当局は再開のための衛生条件が整っていないと判断していることから、これらの業種については引き続き閉鎖すると発表(14日(木)に関連の政令が官報に告示)。ドリア・サンパウロ州知事は、5月31日まで延長された現在の外出自粛措置(クアレンテーナ)の内容について変更はなされないと説明。
- 13日(水)、ドリア・サンパウロ州知事は、ロックダウン実施の可能性に関する記者からの質問に対し、州のロックダウンについては現時点で想定されていないものの、今後の状況を注視しつつ、保健当局による勧告があれば実施する可能性は排除されないと応答した。
- 13日(水)、サンパウロ州政府は、3千万リアルを投入し、サントス地域(サントス市、プライア・グランデ市、イタニャエン市)の病院に350の病床を新設することを発表(うち50床がICU病床)。同地域では感染者数、死者数共に増加しており、サンパウロ大都市圏に続き州内で2番目にコロナウイルスの感染が拡大している地域となっている。イタニャエン等の市では病床の占有率が80%を超えている。
- 13日(水)、サンパウロ州政府は、州政府が購入した人工呼吸器の詳細や現状について説明。伯企業と中国から計2530台(計6250万米ドル)を購入し、このうち中国からの購入台数は2280台。5月20日(水)までに1150台が州政府に引き渡される予定。
- 13日(水)、サンパウロ州政府は、コロナウイルスを検出するための簡易検査につきサン・カルロス連邦大学の研究者が研究を行っていると発表。同研究では、電気化学センサーを用いて患者の唾液を検査する方法が開発される予定。また、同研究チームでは、センサーを使って家庭、道路、事務所、下水道等の様々な環境でウイルスを検知する研究も進めている。
- 13日(水)、サンパウロ州政府は、サンパウロ州消費者保護団体(Procon-SP)が商品の不当な値上げを行っている店舗の監視を継続し、これまで34の店舗に対し計300万リアル超の罰金を科したと発表。不当な値上げは薬局やスーパーに多く見られ、それぞれ12の店舗が罰金支払いを命じられた。
- 13日(水)、サンパウロ市は、8日(金)までに、市立学校で給食用にストックされていた161トンの食料を市の食料バンクや福祉・社会開発局の38の避難所に割り当てたと発表。

2 マット・グロッソ州

5月12日(火)～13日(水)

- 13日(水) 17時現在、州内感染者数は前日比69人増の673人、うち州都クイアバ市が227人、ロンドノーポリス市が66人、ヴァルゼア・グランデ市が61人と続く。入院患者数は59人(うち33人がICU)。州内死者数は新たに21人目(62歳女性、カセレス市、がんと糖尿病を患っていた)が確認され

た。統一医療保健システム（SUS）に参加する州内病院におけるコロナウイルス感染患者向けのICU病床の空きは213床（占有率9.4%）、一般病床は639床（同2.3%）。

- 12日（火）、同州知事は、州内各行政の責任者に対し、職員のマスク着用を求めない場合には、罰金を科すことも想定していると発表。同州はブラジル国内で初めてマスク着用を義務付けた州であるとして、他州に対して引き続き模範を示す必要があると説明。なお、同州政府は同日より、軍警察がクイアバ市内等の公園で、市民がマスクを着用しているか毎日監視すると発表。
- 12日（火）、同州政府はメトロポリターノ病院（ヴァルゼア・グランデ市）の病棟拡張工事の進捗を92%と発表。14日（木）にコロナウイルス感染患者向けに計278病床（40床がICU）を備えて稼働予定。
- 13日（水）、クイアバ市は今般開いた同州工業連盟（Fiemt）の代表との会合を踏まえ、工業部門の稼働時間を週最大30時間の交代勤務制とすると発表。操業許可時間は5時半～17時半。
- 13日（水）、クイアバ市は市内の公立学校で、18日（月）から教室での授業を段階的に再開予定としていた計画を改め、6月まで休校を延長すると発表。

### 3 マット・グロッソ・ド・スル州

5月10日（日）～13日（水）

- 13日（水）午前11時現在、州内感染者数は前日比25人増の430人、うち州都カンポ・グランデ市が162人、トレス・ラゴアス市が75人、ギア・ロペス・ダ・ラグナ市が46人と続く。入院患者数は19人（うち9人がICU）。州内死者数は新たに13人目（57歳男性、ブラジランジア市、糖尿病と肥満症を患っていた）が確認された。これまでにカンポ・グランデ市で実施したドライブスルー形式の感染検査数は1783人で、うち38人が陽性を示した。ドウラードス市では148人のうち6人が、トレス・ラゴアス市では131人のうち15人が陽性。コロンバ市では9人に検査を実施し、感染者は確認されなかった。なお、同州では全79市のうち32市に感染が広がっており、中でもギア・ロペス・ダ・ラグナ市については感染率が10万人あたり464.9人とブラジル国内でも最も悪く、危機的な状況と位置づけられている。
- 13日（水）、同州政府は12日（火）の州の社会的隔離の実施率が43.4%となり、全27州（全国平均は43.7%）のうち14位に入ったと発表。複数の州で社会的隔離措置の緩和があったことや、同日に州内で強い雨が降ったことなどが要因。
- 10日（日）、同州保健局はSNSライブ配信を通じ、老人ホームに暮らしている高齢者に向けた感染防止策を発表。同州の老人ホームの入居者数は1600人以上で、職員数は約800人。
- 11日（月）、カンポ・グランデ市はコロナウイルスの感染拡大防止策の一環で実施している夜間（0時～5時）の外出禁止措置を5月31日（日）まで延長すると発表。
- 11日（月）、カンポ・グランデ市は市内スーパーの経営者に対し、従業員の健康管理等を効率的に行える無料のオンラインツールを紹介したと発表。
- 11日（月）、カンポ・グランデ市は各行政窓口の特別対応時間（8時半～13時半）を5月22日（金）まで延長すると発表。但し、治安や社会福祉、医療関係者は対象外。
- 11日（月）、カンポ・グランデ市は市内の若者に向けたオンライン教養コンテンツのSNS配信を12日（火）に始めると発表。同市長は5月7日（木）～21日（木）に前倒しした冬休み期間中に新たな知識を得る機会に役立てて欲しいと説明。

（了）